

「遣わされるのでなければ」

ローマ 10:11~15

■ 彼に信頼する者は、失望させられることがない

『彼に信頼するものは、失望させられることがない。』(ローマ 10:11) どんな人であれ、このことばを信じる人に、この約束はあてはまります。「彼に信頼するものは失望させられることがない」とはすごい約束です。しかし、周りの人はどうでしょうか？多くの人がこのことを知らずに過ごしています。『しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じるができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。』(ローマ 10:14-15) 今日御言葉は、私たちが遣わされ、宣べ伝えるとき、そこに信じる人がいて福音がひろがっていく宣教の流れが描かれています。

■ はじまりの奇跡

今回の参議院選挙は神様の奇跡でした。政治を知っている人からは無謀な挑戦だと何度も言われるほどでした。しかし、主は奇跡を見せてくださいました。そしてこれは「はじまりの奇跡」です。もっと神様に期待していくこと、多くのチャレンジがあること、難しい課題に直面した時にも『人にはできないが神様にはできる』(ルカ 18:27) そのような信仰を持って、前に進むことを強く思われています。ある委員会に遣わされたとき、「教会の公益性は何ですか？」と質問がありました。言い換えると「教会は社会の役に立っているんですか？」というものです。明治の頃、教会は多くの病院や学校を建てました。戦後、たくさんの福祉施設を広げていったのも教会でした。岡山でも孤児を救うことに生涯捧げた石井十次の働きがありました。教会が社会の先頭に立って国を良くしていた時代があります。今、私たちはそうになっていかなければいけません。「教会があつてよかった」「育児に悩んだら教会に行こう」そう言ってもらえるような教会になっていくことを日本の教会が求めていくときです。

■ 派遣と宣教

教育や福祉に思いを持って国会に遣わされましたが、最初に開かれた扉は福音を宣べ伝えることでした。神様に派遣されるところで、宣教の働きは広がっていきます。つまり、宣べ伝えることと、遣わされることは関係が強いのです。福音を伝えることは難しいことです。家族や近い人になるとさらに難しくなります。祈っていてもうまく伝えられなかったり、言葉が出てこなかったり、あとで自己嫌悪に陥ることもあります。しかし、神様に遣わされたところではとても福音が伝えやすいです。インタビュー中にマスコミの方に伝える機会が与えられます。遣わされるということは、宣べ伝えることがセットなのです。

■ いつでも語れるように

ですから私たちは、いつでも語れる準備をしておかなければなりません。終わりの時代、多くの人が真理を知りたいと思っています。ただ、誰に聞いたらいいかわからない、そんな話をしてもいいのかな？そのような不安を持っています。パウロが宣教したとき、すべての人が救われたわけではありませんでした。しかし、その中でも信じた人がいて、それが初代教会の種になりました。ですから私たちは、1/3、1/5 でも、その人が救われるなら、100% の信仰を持って、喜んで福音を伝えていくことができます。

『むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求め人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしないなさい。』(第一ペテロ 3:15)

私たちに希望があります。彼を呼び求めるならどんな人でも救われる、罪が赦される希望です。しかし、周りを見ると「自分が悪かった」と言えない人がいます。罪を認められない、弱さを見せることができないので、自分は正しい、自分は間違っていないという大きな鎧を着ています。赦されることを知らず、重荷を持ったままにいる人が社会にたくさんいます。

『また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。』(ルカ 12:11-12)

私たちが語る言葉は、立派な言葉や素晴らしい話ではありません。どんなにつたない言葉でも私たちがその人に届けたときに、聖霊様が働いてくださり、その言葉を用いてくださり、その人の心に響いていくのです。

■ 福音を伝えるのは「足」

『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。』(ローマ 10:15)

良い知らせを伝えるのは口ではなく「足」です。よい言葉を口から言おうとするのではなく、遣わされたところで宣べ伝えることが大切です。

『それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。』(マルコ 16:15)

この御言葉にある「出て行き」と言うのは、慣れ親しんだところから1歩出ていくという意味です。私たちは学校や職場、新しい仲間などいろんなところに遣わされます。慣れ親しんだところではなく、そこから一歩踏み出して「私はクリスチャンです」「私は福音を伝えるものです」と手を挙げるときに、福音を語るチャンスが広がっていきます。福音宣教は霊的な戦いです。私たちは『足には平和の福音の備えをはきなさい。』(エペソ 6:15) 祈りながら、福音を伝えていく必要があります。現代訳では、『神との平和を内容とした福音をいつでも述べ伝えるように』と書かれています。これは、神様との和解である福音を、いつでも足にはきなさいということです。福音を伝えるのは「足」なのです。

■ 終わりの時代に

私たちが生きている時代は「愛が冷えた時代(マタ 24:12)」「戦争や戦争の噂を聞く時代(マタ 24:6)」「希望が見出せない時代(ルカ 1:79)」です。希望を見出せない人が暗黒と死の影に座っています。しかし、私たちの希望はイエス様にあります。そして、私たちは世の光ですから、光となって周りの人々を照らします。しかし、何も知らず暗闇のなかにいる人達はどうなるのでしょうか。希望を探しても見つからず、薬をも掴み思いで偽りの希望をつかみ、ますます滅びの道を進んでしまいます。偽りの希望を中心とした国づくりが広がっていきます。ですから、私たちは遣わされた場所で、本当の希望を伝えていく必要があります。『平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。』(マタイ 5:9)

今、平和を「つくる者」の時代です。平和をつくるクリスチャンとは何をしたら良いのでしょうか？ 私たちはどうやったら平和ができるのか、平和をつくるために何をしたら良いのか、神様に祈って、行動しなければなりません。

■ キリストのからだを建て上げるとき

『ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。』(エペソ 4:13)

教会のビジョンを共に祈りましょう。日本の教会はそれぞれに個性も賜物も違います。私たちはそれぞれユニークな存在です。私たちが目指していくのは頭(かしら)であるイエス様につながっていくことです。私たちが繋がると、『人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく』(エペソ 4:14) となります。

私たちの周りにはたくさんの混沌があります。だからこそ、私たちは真剣に神様を礼拝します。これから教会にはいろいろな考えや教えを持った人がやってきます。私たちは今こそ大人になり、成熟したものとして、受け皿を備えていくときです。

『むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。』(エペソ 4:15)

そのために愛をもって真理を語る事が必要です。ときにはクリスチャン同士、言い難いこともあるかもしれませんが、私たちが互いに高め合う友ならば、愛を持って伝え、その人を傷つけることなく、その人を立て上げていくときに祝福される、そのような愛を持って真理を語り合う関係を築いていく必要があります。

■ さいごに

アドベント第一週、降誕節を待ちわびるときです。イエス様は何のために私たちのところ来たのでしょうか？それは十字架にかかるためです。口に酸いぶどう酒をあてられ、手と足に釘を刺されたのは、私たちの口や手足が間違った方向に進んだからです。

私たちの足は今どこにむいていますか？もし、神様が行けと言われていない方向に進むなら、そこには福音とは違ったものが広がっていきます。神様が行けと言われる、遣わされる方向に進むなら、そこに神様の奇跡が現れます。アドベント、イエス様を心にお迎えし、彼と共に歩む準備をしていきましょう。

(要約者:岡本 享子)

(2022年11月27日)